

新防災教育施設基本計画（概要版）

I 新防災教育施設のあるべき姿

■本施設の位置づけ

総合防災拠点（県総合運動公園）の平時からの防災にかかる学習・教育機能として整備します。
 ※栃木県地域防災計画（令和5（2023）年1月改定）の中で、県内外における大規模災害時の的確な被災地支援のための機能と住民が適切な避難行動等を行えるようにするための平時からの防災にかかる学習・教育機能を兼ね備えた総合的な防災拠点として、県総合運動公園を指定しました。

■現在の栃木県防災館の分析

既存の栃木県防災館については以下のような課題があげられます。
 ①ストーリー性の欠如、②設備の老朽化、③利用者数の減少傾向、
 ④学校団体の利用が少ない、⑤防災関係などの活動主体の利用が少ない
 上記課題を解決する新たな防災教育施設としての整備が求められます。

■本施設の基本理念および方向性

本施設の基本理念は防災教育を通じた「助け合う未来のとちぎ人づくり」のための拠点とし、防災教育を学校や地域などへ展開し、さらに将来的には郷土愛に満ちた助け合うとちぎ人が育まれ、防災による地域コミュニティの活性化も目指します。
 その実現のため、先進技術などの効果的な活用により実際の災害を疑似体験し、自分事化できるよう工夫することで、災害のメカニズム、体験、災害への備え、自助、共助などといった防災に関する一連の流れがストーリー性を持って学習でき、実践的な防災力を高めることのできる施設を目指します。

【未来のとちぎ人育成に向けた本施設の方向性イメージ】



■本施設のコンセプト

基本理念および方向性を実現するためのコンセプトとして
いつ来ても、何度でもまなぶことができる！
みんなでつどい、まなび、ひろがることで「助け合うとちぎ人」をつくる場！
 を掲げ、総合運動公園という立地も活かして幅広い層の県民にアプローチし、これまでにない「助け合う人づくりの拠点」としての新たな防災教育施設を実現することを目指します。

II 新防災教育施設の各機能の考え方

施設コンセプトを達成するため、
 ①多くの県民が利用し、防災に関する人材の交流も創出するための「つどい機能」
 ②VR等の活用などによるストーリー性とターゲットごとに変化性のある「まなび機能」
 ③来訪が難しい県民への発信や多様な主体と連携する「ひろがり機能」
 を整備し、多様な活動主体や団体等の利用や連携による防災意識の向上と地域活性化を目指します。

【3つの機能とその効果イメージ】



県域全体への学びで生まれる「助け合う未来のとちぎ人」が、逃げ遅れによる人的被害ゼロとともに、防災による地域の活性化を実現

つどい機能の考え方

本施設を目的とせず来訪した公園利用者や近隣住民などが何気なく立ち寄りたくなる工夫を施します。加えて、来館を促すような多様な事業を行うことで、利用者同士による防災人材の交流拡大を図るとともに、県内の防災人材のネットワークを構築し、その拠点としても活用していきます。

ひろがり機能の考え方

防災教育や情報を発信可能な機能を付与し、本施設への来訪が難しい県民への防災教育の提供等、県全域への学びの波及を実現します。さらに、多様な主体の各々の活動等が新たな出会い（つどい）となり、防災人材の交流を拡大（ひろがり）し、防災をきっかけとした地域の活性化を目指します。

III-1 展示計画

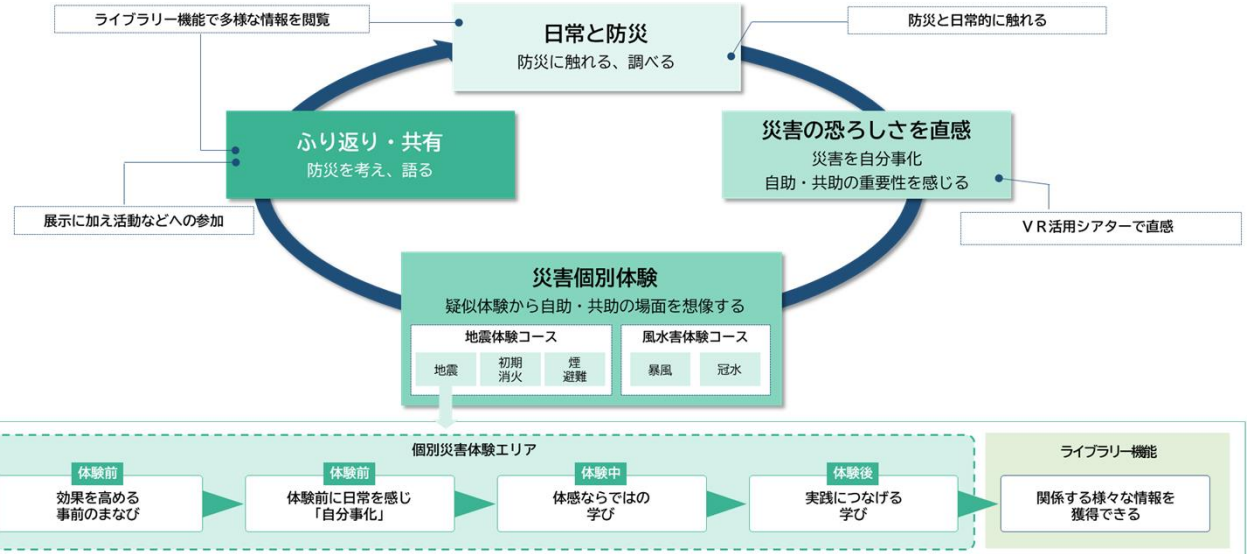
まなび機能の考え方

防災教育の中心であるまなび機能では、VR等の先進技術の効果的な活用などにより、栃木県の災害の多様性、実際の災害の疑似体験、その災害による大切な人を失う悲しさ等を直感できる導入展示に始まり、「いつも」の日常が「必ず」やってくる災害によって壊されてしまう恐ろしさや、そのための備え等を自分事として学習できる、実践的な防災力を高めるためのストーリーを構築します。

■全体ストーリー

単発的な災害体験の繰り返しとならないよう、個々の災害体験についてメカニズムや災害への備え等の学びを深めながら、体験全体を通して自助・共助の意識が徐々に高まるストーリー構成とし、「助け合う未来のとちぎ人」を生み出す拠点づくりを目指します。
 さらに、デジタル技術を活用し、年代が上がるにつれても自助から共助の学びを多くするなど、年代等に応じて学習する内容を変化させるような工夫も施していきます。

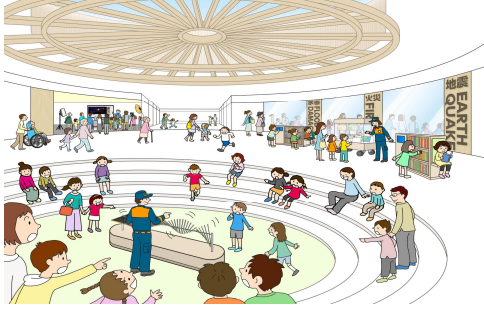
【まなび機能の体験ストーリー構成イメージ】



新防災教育施設基本計画（概要版）

Ⅲ-2 各ゾーンのイメージ

エントランス



日常的なつどいを誘発するよう、明るく、開かれたエントランスでは防災についての情報を提供、簡易なワークショップなども開催し、にぎわいを創出

シアター



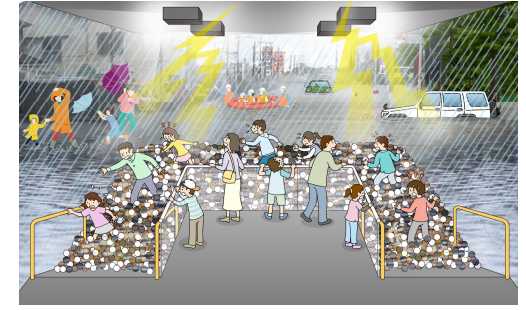
複数台のプロジェクター投影により「映像に包まれる」臨場感や高い体感性を提供、防災の自分事化につなげるため先進技術を活用

地震体験



没入感の高い映像投影と実際の地震波形の採用により、リアルな体験性を実現、新たな地震の追加・更新も可能

冠水体験



水の利用を避けた冠水体験で、歩きづらさや、足元が見えない恐怖感を体感し、実際の災害時に外出することの危険性を直感

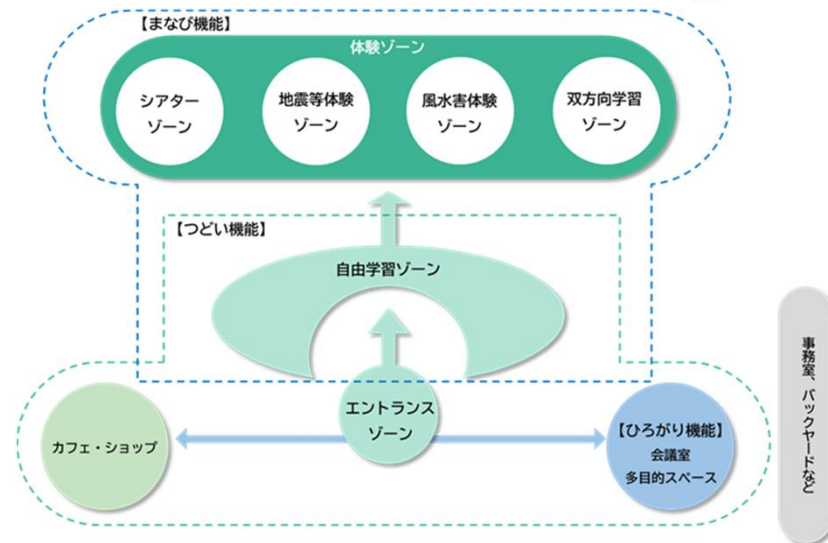
Ⅳ 施設計画

整備場所：栃木県総合運動公園内第2陸上競技上り前

規模：RC造1F（想定）延床面積 約1,800㎡程度



【施設のゾーニング案】



Ⅴ 事業活動の方向性

本施設の機能のうち、特につどい機能とひろがり機能においては、県内の様々な活動主体を中心とした外部組織と連携し、多様な活動を継続的に実施することが重要になります。そのため、以下のような事業活動の展開を想定しており、引き続き関係機関と連携し、その具体化等について検討を続けていきます。

①連携による防災人材育成・防災人材のマッチング

防災士会や消防団、県内高等教育機関など防災に関するノウハウや技術を有した主体と連携を図り、多様な防災人材を育成します。また、防災人材の登録・管理、マッチングを行うハブ機能化を目指します。

②防災に係る主体の活動及び情報発信の場の提供

研修の実施や成果の発表、研究のフィールドワークを兼ねた事業の開催など、防災に係る主体の活動の場を提供し、発信機能を活用したオンラインでの研究結果発表など、情報発信の場も提供します。

③防災に係る多様な主体同士の交流及び交流成果の波及

これまでにつながりがなかった防災に係る主体同士が、交流を深めることを通じて、多様な防災人材同士のマッチングや新たな防災教育のきっかけの創出等につなげます。さらには交流で得られた防災に係る知識・技能・情報やネットワークを、地域で活用してもらい、地域における防災活動の活性化を促進します。

Ⅵ 施設整備全体の概算事業費とスケジュール

■概算事業費：約26億円

■スケジュール（予定）

令和6～7年度	基本・実施設計
令和8～10年度	展示・建築工事、外構・復旧工事
令和10年度中	供用開始



※本計画は設計前時点でのものであり、設計等の状況に応じて修正する場合がございます。